

## 視察報告

# 第18回アジア競技大会（ジャカルタ，パレンバン） 開会式，ジャカルタ市内の様相

富田 幸祐（オリンピックスポーツ文化研究所）

## 1. はじめに

2018年8月18日～9月2日にかけて、インドネシアのジャカルタそしてパレンバンにおいて第18回アジア競技大会（Asian Games 2018 Jakarta Palembang：以下、第18回大会と略す）が開催され、45の国と地域から1万人を超えるアスリートが参戦した。第18回大会は当初2019年にベトナムのハノイで開催が予定されていた。だがベトナムが財政難を理由に開催権を返上したことで、再度開催都市の選考が行われることとなり、最終的にインドネシアが開催権を獲得した<sup>1)</sup>。その際、開催年が2018年へと変更となり、ジャカルタとパレンバンの二都市に会場が作られることになった。インドネシアでのアジア大会の開催は1962年の第4回大会以来二度目の開催であり、また奇しくも第4回大会と同様に、2年後に東京での夏季オリンピックを控えるという状況となった。

筆者は、アジア大会開会式と市内の視察のために8月16日～21日にかけてジャカルタを訪れた。本稿はその視察報告を行うものである。

## 2. 開会式

2018年8月18日（土）、第18回アジア大会の開会式の挙行日である。この日の朝、ジャカルタ市内ではトーチリレーが行われた。通行止めとなった片側5車線道路にはトーチランナーとそれ

を囲うスタッフ、警備、そして沿道に駆けつけた観客の「インドネシア」コールが止むことはなく、大通りに声援が響いていた（資料1）。



資料1 ジャカルタ市内のトーチリレーの様子

開会式はゲロラ・ブン・カルノ・スポーツ複合施設（Gelora Bung Karno Sports Complex）（資料2）の中にあるメインスタジアムで行われた（資料3）。このスタジアムは元々1962年の第4回大会開催のために、ソ連から1200万米ドルの融資と技術協力を得て建設されたものである<sup>2)</sup>。今大会のために改修が行われ、中にある各種施設も、大会会場として使用された。会場周りには開会式の観戦のために訪れた人を多く確認することがで

きた (資料4).



資料2 ゲロラ・ブン・カルノ・スポーツ・コンプレックス全体図



資料3 ゲロラ・ブン・カルノ・スタジア

会場の内外で「ask me」と書かれたビブスを着た大会スタッフが問い合わせに対応していた。こうしたスタッフの多くはボランティアである。第18回大会では約一万三千人のボランティアが参加しその多くは大学生である。彼/彼女らには路線バスの無料パス、食費と交通費として1日30万ルピア(約2300円)の日当がそれぞれに支払われている<sup>3)</sup>。会場の至るところにボランティ



資料4 大会会場周辺に集う観客

アスタッフが配備されていた<sup>4)</sup>。

開会式のチケットはオンライン予約で購入, チケット引換所(資料5)にて身分証明とバウンチャーを提示し, チケットを入手した(資料6)。なお開会式の当日券は販売されていなかった。その他, 競技の当日券については別の場所にチケット売場が設置されていた。また競技は見る事ができないが会場内にある売店やイベントブースに入るためのチケットとして, フェスティバルチケットが販売されていた(資料7)。

チケットを入手後, 手荷物検査を通過して少し歩くとスカルノの銅像が鎮座する広場に出た(資料8)。この広場には協賛企業の出店や体験コーナー, そして飲食屋台などが数多く並んでいた(資料9)。その中でも一際行列となっていたのは第18回大会公式グッズ売場であった。混雑のためか入場は入れ替え制となっており, 中に入るとポロシャツやマグカップ, ぬいぐるみ, キーホルダーなどオフィシャルグッズが販売していた(資料10)。



資料5 チケット引換所



資料8 スカルノ像



資料6 開会式チケット



資料9 出店ブース



資料10 第18回大会オフィシャルショップ

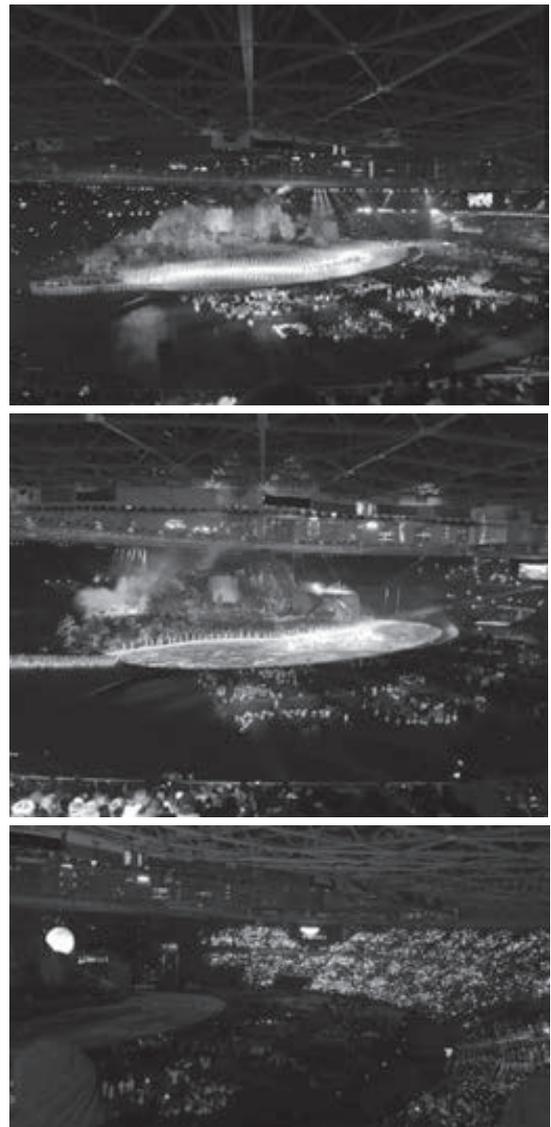


資料7 フェスティバルチケット

メインスタジアムに入ると、会場には巨大な山をメインとしたステージが設置され、その前にショーのためのスペースと、選手用の座席がセットされていた<sup>5)</sup>(資料11)。17時からプレショーが行われ、19時過ぎから第18回大会の開会式が始まった。冒頭、インドネシアのジョコ・ウィドト大統領をメインに据えた映像が会場のオーロラビジョンに映された。バイクに乗って大統領が登場するという演出に観客は一喜一笑。そして選手入場が始まり、続々と各国・地域の選手団が入場してきた。インドネシアの入場は言うに及ばず、一際大きな歓声が挙がったのは南北朝鮮の合同入場であった。その後、ジョコ・ウィドト大統領と、アジアオリンピック評議会のファハド・アル・サバーハ会長の挨拶が行われた。インドネシアでの二度目のアジア大会開催であり、前回大会と同じ会場で開会式や多くの競技が行われることに対するインドネシアとしての「誇り」、そしてスポーツ文化の継承としての「レガシー」が強調された挨拶となっていた。挨拶が終わるとショーが始まった。「WATER」「EARTH」「WIND」「FIRE」「ENERGY」をテーマに4000人を超えるパフォーマーによって次々と演舞が行われた<sup>6)</sup>。また「FIRE」のタイミングで、山の頂上にある火口にトーチの点火が行われた。終盤、会場の照明が消されたタイミングで観客それぞれが自らのスマホのライトを点灯させ演出に花を添えた(資料12)。



資料11 会場に設営されたステージ



資料12 開会式の様子

多くの観客がインドネシア人であり、会場では事あるごとに「インドネシア」コールが響いていた。地響きにも似た歓声がこだまするその光景からは、第18回大会の開催、そして開会式でのプログラム一つ一つの「荘厳さ」に対し、自らの母国インドネシアに対する誇りと興奮を感じているような印象を受けた。

### 3. ジャカルタ市内の様相

ゲロラ・ブン・カルノ・スポーツ・コンプレックスがあるジャカルタでは、アジア大会開催に合わせて幟や垂れ幕、モニュメントなどが設置されていた(資料13)。市内のショッピングモールに

はアジア大会の開催に合わせたセールやアンテナショップがあり（資料14）、マーケットではストリートアートのようなものを確認することができた（資料15）。ジャカルタの観光名所としても知られる「MONAS<sup>7)</sup>」や「西イリアン解放像<sup>8)</sup>」にもアジア大会を知らせる看板が設置されていた（資料16）。また市内のバスステーションもアジア大会仕様となっていた（資料17）。インドネシア国立博物館（Museum Nasional Indonesia）では1962年の第4回アジア大会展が催され、当時の新聞や写真、レコード、メダルといった貴重な資料が展示され、またインドネシアの教育文科省の文化主事によって編纂された第4回アジア大会に関する書籍を無料で頒布していた（資料18）。スカルノ・ハッタ国際空港にもアジア大会ブースが設置してあり、ジャカルタの至るところでアジア大会の開催は目につくような状況であった（資料19）。



資料14 アジア大会セールの告知



資料15 グランドインドネシア内のアンテナショップ



資料13 ジャカルタ市内の様相



資料16 MONAS 周辺



資料17 アジア大会仕様のバスとバスステーション



資料18 インドネシア国立博物館

#### 4. おわりに

第18回アジア大会は9月2日に無事閉幕を迎えた。日本でも2年後の東京オリンピックに向けた大会として連日中継や、スポーツニュースで日本選手のメダル獲得が報道されるなどある程度の注目は浴びていたと思う。インドネシアにとって

も大会成功は更なる弾みとなったようで、ジョコ・ウィドト大統領が2032年のオリンピック招致を立候補すると発言したとの報道が出ている<sup>9)</sup>。今後のオリンピックの行く末を考える上でも第18回アジア大会は非常に重要な大会となったのではないかと思う。



資料19 スカルノ・ハッタ国際空港にて

#### 注および引用参考文献

- 1) 「次回大会は18年にジャカルタで」『朝日新聞』2014年9月21日付26面朝刊.
- 2) シュテファン・ヒュブナー著、高嶋航・富田幸祐訳『スポーツがつくったアジア』一色出版,

2017年.

- 3) 「ボランティア 日当も励み」『朝日新聞』2018年8月30日付夕刊10面.
- 4) 私も会場で何度かボランティアスタッフに対応を求めた。一度、タクシーに忘れ物をしてしまい、半ば諦めながらもボランティアに相談をしてみた。するとタクシー会社に連絡をしてくれて、乗降場所と時間をヒントに私が乗ってきたタクシーを会社の担当とともに特定してくれたのである。そして無事に忘れ物は手元に戻ってきた。もちろん筆者の一体験の範囲を出る話ではないが、個人的な印象として強く残っている.
- 5) 私の席は正面側左の二階席であった。前後両隣がだいたい10人弱の家族席となっており、到着した時に私の席は荷物置きになっていた。それぞれの家族の子供たちは「インドネシア」コールや歓声を間断なく上げ続け、中には自らのスマホで開会式の様子をSNS配信する子もいた.
- 6) <https://en.asiangames2018.id/about/opening-ceremony>
- 7) Tug Monas : Monumen Nasional と呼ばれる。ジャカルタにある独立広場の中心部にそびえる記念塔。1975年に完成した.
- 8) Patung Pembebasan Irian Barat と呼ばれる。1962年に西イリアン（現ニューギニア島西部）をオランダの植民地支配から奪還したことを記念して建造された.
- 9) 「2031年五輪招致へ インドネシア」『朝日新聞』2018年9月2日付朝刊15面.

（受理日：2019年4月1日）